

付録-4 定期点検対象施設への橋梁 ID の付与要領

1. 橋梁 ID の付与

1.1. 橋梁 ID の付与に関する基本方針

橋梁 ID の付与は直轄が使用している付与要領である「定期点検対象施設の ID 付与に関する参考資料（案） 令和元年 10 月 」に準じて行うこととする。

橋梁 ID には、「緯度経度」を用いて表示することとする。橋梁 ID の位置は、緯度経度を 0.01 秒単位で取得し、十進緯度経度の小数第 5 位に丸め、表記は緯度（小数点を含む 8 桁）＋緯度と経度を区分するカンマ（1 桁）＋経度（小数点を含む 9 桁）の 18 桁（半角）とし、精度は概ね 1 m 程度とする。

1.2. 橋梁 ID 付与の例

表示形式：18 桁番号「緯度（度単位）＋，（カンマ）＋経度（度単位）」
「dd.mm.ss」→ dd+mm/60+ss/60/60＝ （十進緯度経度）

北緯 43 度 10 分 54.00 秒
 $43+10/60+54.00/60/60 = 43.181666 \rightarrow$ 丸め 43.18167

東経 141 度 19 分 32.00 秒
 $141+19/60+32.00/60/60 = 141.325555 \rightarrow$ 丸め 141.32556

※ 橋梁 ID（18 桁・半角）→ 43.18167,141.32556

1.3. 橋梁 ID の位置精度

橋梁 ID の精度は、上下線分離等の近接施設を区分する必要があることから、概ね 1 m 程度とする。概ね 1 m 程度であれば、上り、下り等の区別が可能となる。また、仮に同じ緯度経度になる施設がある場合には、施設の位置関係（東西南北）を考慮したうえで、緯度経度をずらして ID 番号を設定する。なお、重複は不可だが、過剰な精度は必要がないので近接する他の施設がない場合は、秒単位の精度で十分となる場合もある。参考までに、表 1 にて緯度経度の差と距離の関係を示す。

表 1 緯度経度の差と距離の関係

値	赤道上での差	緯度 30 度	緯度 45 度	緯度 60 度
1 度	111km	96.4km	78.7km	55.7km
1 分	1.85km	1.61km	1.31km	0.93km
0.1 分	185m	161m	131m	93m
0.01 分	18.5m	16.1m	13.1m	9.3m
1 秒	31m	27m	22m	15m
0.1 秒	3.1m	2.7m	2.2m	1.5m
0.01 秒	31cm	27cm	22cm	15cm

1.3. 橋梁 ID 付与の位置及び方法

橋梁 ID は、起点の位置情報（緯度・経度）によるものを基本とし、交差道路や上下線分離などの他の構造物と混合しにくい（離れている）ことを考慮して決定する。なお、横断歩道橋など管理路線を横断する施設については、施設の概ね中心の位置情報（緯度・経度）によるものとする。

緯度経度の抽出にあたっては、地理院地図やその他の地図情報等により抽出する方法を基本とする。これらの地図情報により位置を特定できない場合は、現地においてGPS機能を搭載した機器を用いて経度緯度を確認し、付与することも可能とする。

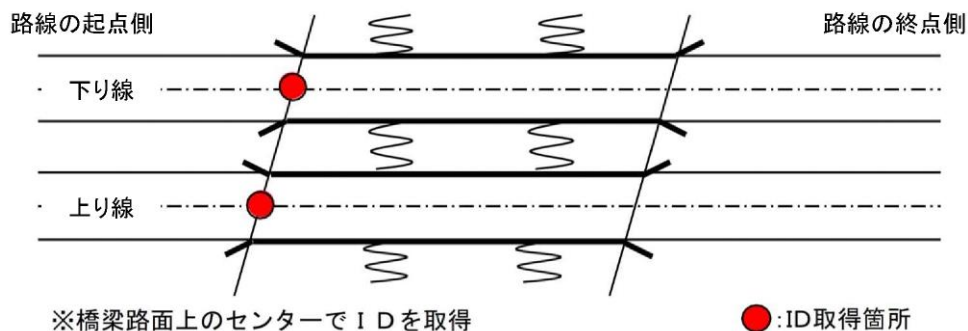


図1 橋梁 ID 付与位置（上下分離の橋梁の例）

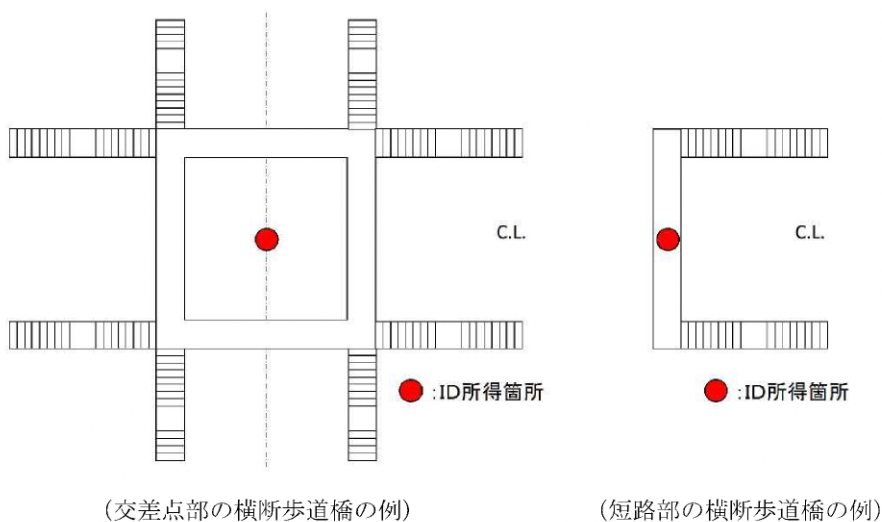


図2 橋梁 ID 付与位置（横断歩道橋の例）